

とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート

2023.4 April vol.61-2

二月定例議会

現場の県民の声を聴く

2月13日から3月3日まで
19日間、二月定例議会が開かれました。今回の議会では、

知事 できる限り私自身が各地
新年度予算や二月補正予算、法
令等の改正による条例改正案
などが上程され、全て可決成立
しました。また、議員提出議案
として、常任委員会の所管を再
編する「島根県議会委員会条例
の一部を改正する条例」案や
「放課後児童クラブの充実を
求める意見書」案を可決しまし
た。今回も一般質問に立ち、次
の内容について質問しました

知事、そして議員は、県民の
負託を受けて、県民のよりよい
生活実現のために、政策立案・
実施に向けて議論をしていま
す。県民の声をしっかりと受け
とめ、その思いを県政に生かし
ていくために、県民との対話が
何よりも大事なことです。

県民との対話

知事、そして議員は、県民の
負託を受けて、県民のよりよい
生活実現のために、政策立案・
実施に向けて議論をしていま
す。県民の声をしっかりと受け
とめ、その思いを県政に生かし
ていくために、県民との対話が
何よりも大事なことです。

知事、そして議員は、県民の
負託を受けて、県民のよりよい
生活実現のために、政策立案・
実施に向けて議論をしていま
す。県民の声をしっかりと受け
とめ、その思いを県政に生かし
ていくために、県民との対話が
何よりも大事なことです。

生活や仕事に

困難を抱える人への支援

知事、そして議員は、県民の
負託を受けて、県民のよりよい
生活実現のために、政策立案・
実施に向けて議論をしていま
す。県民の声をしっかりと受け
とめ、その思いを県政に生かし
ていくために、県民との対話が
何よりも大事なことです。

知事、そして議員は、県民の
負託を受けて、県民のよりよい
生活実現のために、政策立案・
実施に向けて議論をしていま
す。県民の声をしっかりと受け
とめ、その思いを県政に生かし
ていくために、県民との対話が
何よりも大事なことです。

4月9日に行われた島根県議
会議員選挙において、5期目の
当選を果たすことができました。
今回、松江選挙区では2名欠
員のところに4人の新人が立候
補し、いずれも選挙の経験を持
つ候補者ばかりで、誰が落選す
るか予想が難しいという状況下
での選挙でした。このような中
で勝ち抜くことができたのは、
これまでの私の活動を支えてく
ださった皆様の力の結集による

すべての勤労者 生活が笑顔になれる島根づく

すべての子どもたちのために

ものと感謝しています。今後も
皆様のご期待に応えられるよ
う、さらに全力で活動を続け
まいります。

民主県民クラブでは、議席5
人を維持したという結果となり
ました。政治改革が叫ばれる中、
いかに地方から政治の流れを変
えていくのか、私たちに課せら
れた使命は重く、これからも民
主県民クラブの議員全員の力を
合わせて、これまで以上の成果
を出せるよう頑張る決意です。



♥相談や支援にあたる人材のさらなる拡充や、より丁寧な相談支援を続けていくための相談支援の質の確保が必要と考える。取組について聞く。

健康福祉部長 市町村の自立相

談支援機関では、就労や家計改善に向けた支援に加え、返済の猶予に向けた相談支援が行われているが、相談者に寄り添った

きめ細やかな支援が求められることから、支援員のスキルアップや人員体制の強化が必要。このため、県では生活困窮者支援に豊富なノウハウを持つ民間団体から人材派遣を行うOJT研



修事業を行い、7市町で取り組まれ、市町村では、コロナ禍以降、国のセーフティーネット強化交付金などを活用し、5市町において支援員の増員が図られ、4市町においてアウトリーチによる支援体制が整備されるなど、相談支援体制の拡充に取組まれている。

国や県の事業は新年度も引き続き実施する予定で、さらに多くの市町村でこうした事業を活用され、自立相談支援機関の相談支援体制の充実強化が図られるよう働きかけていく。

地域医療構想の再編

現行の地域医療構想は、団塊の世代がすべて75歳以上になる2025年に向けた医療需要の変化に合わせ、地域の実情に対応した医療・介護の提供体制として、必要な病床数を推計し、医療提供体制を構築する指標を示すものとして策定されました。この地域医療構想は策定がゴールではなく、25年に向けての適切な医療提供体制構築について検討を進めるた

めのもので、圏域や地域全体での協議が重要との見解を示されていきました。

♥人口減少をくい止める一つとして医療や介護の確保が必要。中山間地域の在宅医療への対応についての考えを聞く。

知事 中山間地域では都市部に比べて高齢化が進んでいる。今後も当面、後期高齢者が増えるので、通院が困難な人や、自宅での看取りなどの在宅医療でのニ

会派で知事に予算要望

12月16日、民主県民クラブで新年度予算編成に向けての要望書を知事に提出しました。今年度はコロナ対策、物価高騰対策など20項目余りの要望を出しました。

私からは、建設環境委員長として報告した中でも、省エネルギー社会の実現にむけて、脱炭素社会を目指す各分野での取り組みを提言しましたが、県の事業の取り組みの中でも率先して温暖化ガスの排出抑制に取り組みでもらいたいと、J

ーズが増えることが見込まれる。その中核となる診療所では、同時に医師の高齢化、後継者不足が進んでいる。診療所の維持や、診療所を支える拠点病院の支援に取り組んでいく必要がある。

また、中山間地域では利用できざる医療サービスが限られることから、介護や生活支援サービスを含めて包括的に支援できる体制づくり、仕組みづくり

クレジットの取り組みを求めました。J-クレジットとは、

省エネルギー設備の導入や再生可能エネルギーの利用などによる二酸化炭素の排出削減量や、適切な森林管理による二酸化炭素等の吸収量を「クレジット」として国が認証する制度です。そのクレジットを売却することで資金調達し、事業の経費を確保することなどができます。

予算がかかるものではないので、ぜひ工夫して取り組むことで、県民の省エネ意識の醸成につなげてほしいという

思いから提言しました。



民主県民クラブで丸山知事に要望書提出